



令和4年度 第2号
常磐野小学校 校長室だより
令和4年5月25日発行 文責 清川 秀一



「学校ってなんで行かなくちゃいけないの？」

新年度で張り切っていた気持ちも、だんだん緩んできて日曜日の夜には「また明日から学校か・・・」などと誰しも思う頃かと思います。もしかすると、コロナ禍で閉塞感が漂う現代社会においては、ポジティブな気持ちを持つことが以前よりも難しくなっているかもしれません。そんな中、ご家庭で「学校ってなんで行かなくちゃいけないの？」と子どもが尋ねたときにどう返したらよいのでしょうか。子どもに理由を聞きつつ、「友達ができるよ」「勉強すると賢くなるよ」など、その子にあった返し方が必要ですね。

そこで原点に立ち返り「なぜ学校が必要か?」「学校の役割って?」について、私の考えをお話します。学校の役割はもちろん教科の学習をするだけの場所ではありません。常磐野小学校では大きく3つのカテゴリーに分けて取組を進めています。

3つのカテゴリーとは「研究」「人権」「生徒指導」になります。それぞれ説明すると、

「研究」・・・教科の学習に関することで、児童の学力をつけていくための取組を進めます。

「人権」・・・人と人とのかかわりに関することで、人を大切にする取組を進めます。

「生徒指導」・・・自分自身に関することで、自分の行動について考えていく取組を進めます。

となります。様々な知識を得ることだけなら、塾やその他の方法で身につけることが可能かと思いますが、学校では1つの授業、たとえば道徳であったり、社会科であったりの中で、その教科での知識や考え方、表現方法の習得はもちろん、人とのかかわりの中で相手を尊重する気持ちを大事にすることや、自分自身がどう考え、どう意思決定して行動するのかという3つのカテゴリーの視点が入っています。

それらが身に付いたかを判断するのに、教科学習の理解度はテストの点などでわかりますが、人と上手に関わることや自分で判断し行動するような力は「非認知能力」と呼ばれ、数値化が難しいと考えられます。非認知能力には、やり抜く力、目標に向かって頑張る力、自制・自律性、自己肯定感、他者へ配慮、コミュニケーション能力などがあり、そしてこれは、児童がよりよい人生を送るために必要であるとともに、児童自身の自己実現、つまり「夢をかなえる」ことにつながってくると考えます。学校の取組では3つのカテゴリーの視点で内容を考え、学級や学年などの単位で学習することが多いですが、縦割りの活動や地域の方を学習にかかわっていただくなど、様々な機会をつくることで、児童の非認知能力を高めていきたいと考えています。

非認知能力については、自分で高まっているのかどうかはわかりにくいので、他者からかけられる言葉が大切になってきます。学校でもできるだけ子どもを伸ばす言葉をかけていきたいと思いますが、ご家庭でも適切なタイミングで成長につながる言葉をかけていただければ有難いです。児童にとって学校が「夢を叶えるための場所」になりますよう、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。